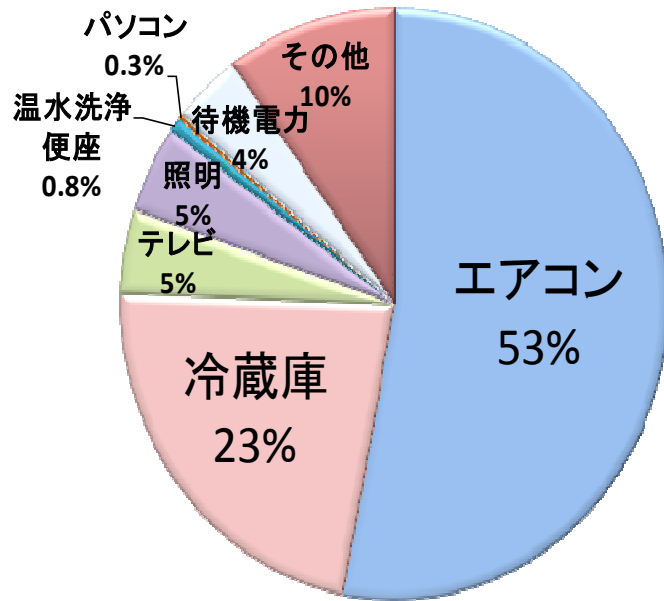


●どんな電気製品を使っている？

夏の日中（14時頃）には、在宅世帯は平均で約1,200Wの電力を消費しており、そのうちエアコンが約半分を占めています。

外出中の世帯でも、冷蔵庫、温水洗浄便座、待機電力などにより、平均で約340Wの電力を消費しています。

【夏の日中（14時頃）の消費電力（全世帯平均）】



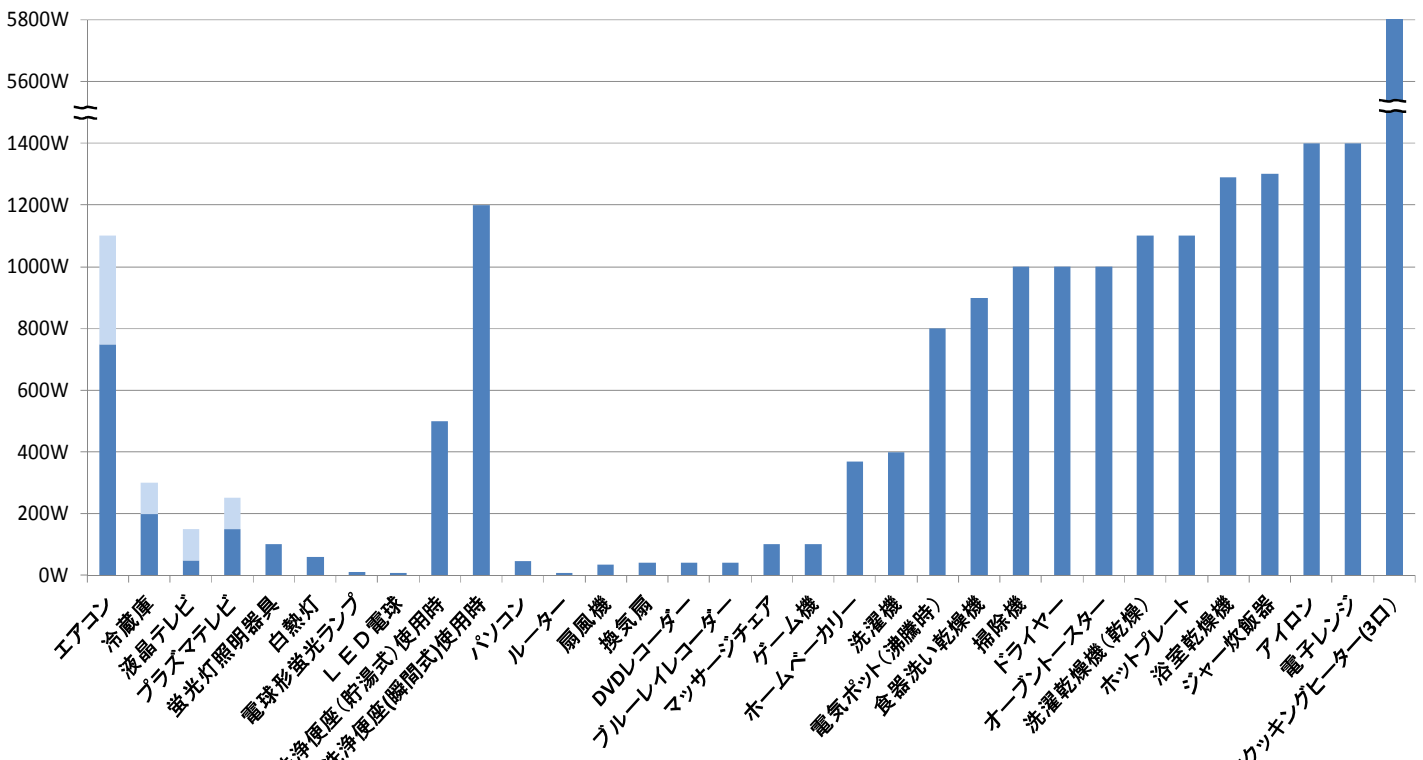
出典：資源エネルギー庁推計  
数値は最大需要発生日を想定

●主な電気製品の消費電力について

💡家庭には1,000Wを上回る電気製品がたくさんあります。消費電力の大きい電気製品は、平日の日中（9時～20時）を避けて使いましょう。

温水洗浄便座、電気ポット、食器洗い乾燥機、オーブントースター、掃除機、ドライヤー、洗濯乾燥機（乾燥）、浴室乾燥機、ジャー炊飯器、電子レンジ、アイロン、IHクッキングヒーター 等








【家庭で使用する主な電気製品の定格消費電力】



出典：資源エネルギー庁調べ

※これは定格消費電力の一例であり、実際の消費電力は、製品の種類、使用方法等により異なります。

ご家庭で取りくむ対策をチェックし、「我が家の節電対策」を作りましょう。

| 取りこんでいただきたい節電対策メニュー   |   | 節電効果       |        | チェック                     |
|---|---|------------|--------|--------------------------|
|   |   | 削減率        | 削減消費電力 |                          |
| エアコン<br>               | 室温28℃を心がけましょう。  | 10%        | 130W   | <input type="checkbox"/> |
|   | ※設定温度を2℃上げた場合   |            |        |                          |
|   | “すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげましょう(エアコンの節電になります)。                          | 10%        | 120W   | <input type="checkbox"/> |
| 冷蔵庫<br>                | 無理のない範囲でエアコンを消して、扇風機を使いましょう。<br>※除湿運転やエアコンの頻繁なオンオフは電力の増加になるので注意しましょう。 | 50%        | 600W   | <input type="checkbox"/> |
|   | 冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品をつめこまないようにしましょう。                | 2%         | 25W    | <input type="checkbox"/> |
| 照明<br>                | 日中は照明を消して、夜間も照明をできるだけ減らしましょう。   | 5%         | 60W    | <input type="checkbox"/> |
| テレビ<br>              | 省エネモードに設定するとともに画面の輝度を下げ、必要な時以外は消しましょう。                                | 2%         | 25W    | <input type="checkbox"/> |
| 温水洗浄便座<br>(暖房便座)<br> | 便座保温・温水のオフ機能、タイマー節電機能があれば、これらを利用しましょう。                                | いずれかの対策により |        |                          |
|   | 上記の機能がなければコンセントからプラグを抜いておきましょう。                                       | 1%未満       | 5W     | <input type="checkbox"/> |
| ジャー炊飯器<br>           | 早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊いて、冷蔵庫に保存しましょう。                                     | 2%         | 25W    | <input type="checkbox"/> |
| 待機電力<br>              | リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切りましょう。長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜いておきましょう。             | 2%         | 25W    | <input type="checkbox"/> |

外出している時にも、④⑦⑧⑩の対策に取りくみましょう。

削減率の合計が15%をこえるように節電しましょう。  %  W

**!** エアコンの控え過ぎによる熱中症などに気をつけて、無理のない範囲で節電しましょう。

※節電効果の記載値は、在宅世帯の日中の平均的消費電力(14時:約1200W)に対する削減率と削減消費電力の目安です(資源エネルギー庁推計)。また、削減率は全て小数点以下を切り捨てています。

その他の対策メニュー

チェック

- エアコン**      フィルターを定期的(2週間に1回程度)に掃除しましょう。
- 冷蔵庫**      庫内にビニールカーテンを取りつけましょう。
- 電気ポット**      お湯はガスコンロで沸かし、ポットの電源は切りましょう。
- 洗濯機**      容量の80%程度を目安にまとめ洗いをしましょう。
- パソコン**      日中、短時間であればノートパソコンの電源を抜いて使いましょう。
- 掃除機**      紙パック式はこまめにパックを交換しましょう。
- ライフスタイル**      **節電のための家事スケジュールをたてておきましょう。**  
 日中(9時~20時)を避けて電気製品を上手に使うため、一日の家事スケジュールを事前にたてておきましょう。   
**旅行や外出も節電に役立ちます。**  
 外出時の家庭の電力消費は、在宅時を大きく下回ります。旅行や外出は、有効な節電手法の一つです。
- 節水**      **食器のまとめ洗いやシャワー時間の短縮など節水を心がけましょう。**   
 節水によって、水を送るポンプや上下水道施設の消費電力を減らすことができます。

夏前の準備

**○主な電気製品の消費電力を調べてみましょう。**

ご家庭で使っている主な電気製品の消費電力を調べてみましょう。電気製品の取扱説明書や本体には年間消費電力量や定格消費電力などが記載されています。

夏にご家庭で使う電気製品の消費電力を推定してみましょう。

|      |                  |     |   |   |   |
|------|------------------|-----|---|---|---|
| エアコン | 冷房時消費電力          | W × | 台 | = | W |
| 冷蔵庫  | 年間消費電力量に0.3を掛けた値 | W × | 台 | = | W |
| テレビ  | 年間消費電力量に0.6を掛けた値 | W × | 台 | = | W |
| 照明1  | 定格消費電力           | W   | 個 | = | W |
| 照明2  |                  | W   | 個 | = | W |
| 照明3  |                  | W   | 個 | = | W |

※計算した値はあくまで目安の値になります。

**○省エネ家電に買い替えましょう。**

最新型の電気製品は消費電力が少なく、買い替えると大きな節電効果があります。統一省エネルギーを参考に省エネ家電を購入しましょう。(ただし、お使いの電気製品をより大型のものに替えると消費電力が増えることもありますのでご注意ください。)

**○白熱電球を電球形蛍光灯やLED電球に交換しましょう。**

白熱電球1個(60形の場合:54W)は、最新式の32V型液晶テレビとほぼ同じ電力を消費します。

白熱電球を電球形蛍光灯(12W)に交換することで42W、LED電球(8W)なら46W程度節電することができます。

統一省エネラベル



## 夏季の休業・休暇の分散化・長期化と観光の促進

### (夏季の休業・休暇の分散化・長期化)

夏季のピーク対策の一つとして、産業界を中心に、個々又は複数事業者の事業所間で休業日を調整し、節電が必要な期間、輪番で一部の事業所を休業させたり、休暇を長期化させたりすることによって、生産活動等を抑えることなく、全体としてピーク時の最大使用電力を一定レベル以下に抑制できるようにすることが考えられる。

(図1) 複数企業による休業分散化の例

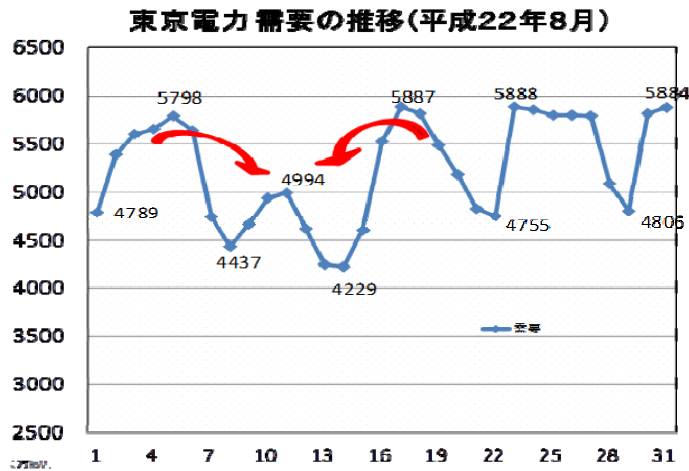
|       |    | 月  | 火  | 水 | 木  | 金 | 土 | 日  | 月 | ... |  |
|-------|----|----|----|---|----|---|---|----|---|-----|--|
| グループ1 | A社 | 休業 |    |   |    |   |   | 休業 |   | ... |  |
|       | B社 |    |    |   |    |   |   |    |   |     |  |
|       | C社 |    |    |   |    |   |   |    |   |     |  |
| グループ2 | D社 |    | 休業 |   |    |   |   |    |   | ... |  |
|       | E社 |    |    |   |    |   |   |    |   |     |  |
|       | F社 |    |    |   |    |   |   |    |   |     |  |
| グループ3 | G社 |    |    |   | 休業 |   |   |    |   | ... |  |
|       | H社 |    |    |   |    |   |   |    |   |     |  |
|       | I社 |    |    |   |    |   |   |    |   |     |  |

(図2) 秋以降の休業日を夏に振り替えること等による休業分散化・長期化の例



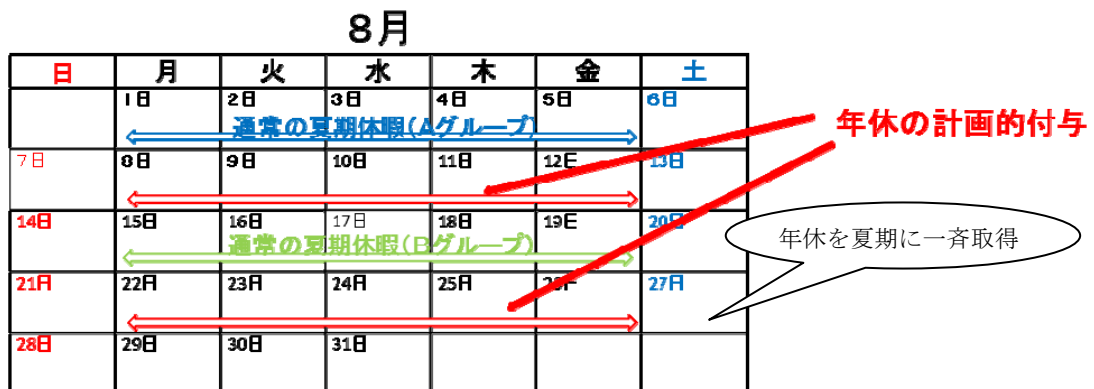
また、特に電力需要が落ち込むお盆の時期や週末に操業をシフトさせることは、東京電力・東北電力管内の最大電力の合計を抑制することにつながる。

(図3) 週末等へのピークシフトのイメージ



これらは、経済活動への影響を最小限にしつつ、節電の実をあげる有効な手法である。また、休業日の設定とあわせて、労使協定に基づく年次有給休暇の計画的付与制度を活用することも効果的である。

(図4) 年次有給休暇の計画的付与制度活用による休業・休暇の分散化・長期化の例



ただし、休業・休暇の設定の見直しは、電力需給抑制のための勤務時間の変更等と相まって、労働者にとって、負担の大きな労働条件の変更となる場合も考えられることから、家族的責任等を有する労働者の事情にも配慮しつつ、労使で十分に話し合いながら取り組むことが必要である。

(家庭における外出・旅行の推進)

外出時の家庭の電力消費は、在宅時を大きく下回る(※注1)。したがって、旅行等の外出を促進することは、行き先を問わず、家庭部門に確実な節電効果をもたらす有効な節電手法である。



特に、休業・休暇の分散化・長期化は、結果として、家庭の外出機会を増やす。分散化による観光地の混雑緩和や料金低下等も相まって、外出がより一層促進されれば、家庭部門の節電効果も大きくなる。加えて、個々の従業員の有給休暇の取得を促進することで、外出する家庭が増加すれば、節電効果の更なる増大が期待できる。

更に、長期滞在型の旅行は、より大きな節電効果が期待できる。これを促進することは、風評被害や自粛ムード等の影響を受けている観光地等の活性化にも資する。また、被災地域への旅行は、地域経済の復興にも貢献する。

(図5) 長期滞在型旅行の例

| テーマ         | 内容   |
|-------------|--|
| 自然&体験       | 高原等の冷涼地や農村等に家族で長期滞在。家族で、大自然をのんびり満喫することや、農業等を体験。              |
| 伝統工芸品等の製作体験 | 伝統工芸が盛んな地域に長期滞在。現地の伝統工芸品等の製作過程(和紙づくり等)を体験。1週間かけて作品を仕上げる。     |
| 夏の自由研究      | 豊かな大自然があふれる地域(サンゴ礁の海等)に親子で長期滞在。自然と触れあう体験を通じて、自然環境についてじっくり学習。 |

### (仕事と生活の調和がとれた生活スタイルの実現)

以上の取組は、今夏の一時的なものに留まらず、家族と過ごす時間の増加、仕事と生活の調和がとれた生活スタイルの実現に繋がることも期待される。

### (政府の取組み)

政府としては、節電対策として休業・休暇の分散化・長期化を推進するに当たり、効果的な節電に資する休業・休暇の設定方法の好事例の紹介や、働き方・休み方の工夫に向けた労使の話合いに必要な情報の提供・相談の充実(※注2)等を行い、企業等の取組実施の円滑化に向けた支援を行う。

また、企業等が休業・休暇を分散化・長期化した場合における、家庭の過ごし方について、滞在メニューや活動内容の提案等具体的にイメージしやすい取組例を提示する等、長期滞在型の旅行の促進に向けた取組を行う。また、政府自らも率先して、休暇の長期化等に取り組む。

(※注1) 一般家庭において、外出時の電力消費は在宅時と比べ約7割少ない。

(※注2) 関係法令に関するパンフレットの作成、相談窓口の設置 等



## 緊急安全対策と今夏の中部電力の需給対策について

平成 23 年 5 月 13 日  
経 済 産 業 省

### 1. 緊急安全対策について

- 東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、3月30日、全国の原子力発電所について、津波により全交流電源及び海水による冷却機能等が喪失したとしても、大量の放射性物質の放出を防止するための緊急安全対策の実施を各電力会社に指示。
- 各電力会社からの報告を踏まえ、現地での立ち入り検査や訓練への立ち会いを行った。その結果、全ての原子力発電所について、直ちに講ずべき短期対策が適切に措置され、中長期的に信頼性を高めるための計画が策定されていることを確認。
- これらの緊急安全対策の確認結果を踏まえ、現在運転中の原子力発電所について運転を継続すること及び起動を控えている原子力発電所が運転を再開することは安全上支障がないと考える。
- なお、これらの確認結果については、国として責任を持つものであり、地元の自治体の皆様の理解が得られるよう、原子力安全・保安院から説明をさせるなど、丁寧に説明をしていく。

### 2. 中部電力浜岡原子力発電所の運転の停止と中部電力の今夏の電力需給

#### (1) 浜岡原子力発電所の運転の停止

- 浜岡原子力発電所については、地震発生に伴う大規模な津波襲来の切迫性と、津波による今回の事故を踏まえ、苦渋の決断として、「一層の安心」のための対応が必要と判断。
- このため、5月6日、中部電力に対し同発電所について、短期対策だけではなく、防潮堤の整備などの中長期対策を完了するまでの間、全号機の運転を停止することを求め、9日、受け入れるとの回答を得た。



## (2) 中部電力の今夏の電力需給の見通し

○ 中部電力によれば、同発電所(3, 4, 5号機:361.7万kW)が全号機停止した場合、本夏の供給力は、2,499万kW。これに対し、最大電力は2,560万kWであり、供給力を上回る。これに対応するため、長期停止火力の運転再開や東京電力への融通の停止により、供給力を2,615万kWに積み増し、2.1%の供給予備率を確保としている。

○ これについて、気温が著しく高かった昨年並みのピークを想定して、最も保守的に評価すると、供給予備率は0.6%となる。

(注) 東京電力・東北電力における検討と同様に、供給計画上の最大3日平均ではなく、昨年並みのピーク(発電端)を利用。

(参考1) 中部電力の需給バランス(送電端ベース。公表済み)

|          | 浜岡全機停止後  | 今夏の供給対策後(7月平均) |
|----------|----------|----------------|
| 想定需要(H3) | 2,560万kW | 2,560万kW       |
| 供給力見通し   | 2,499万kW | 2,615万kW       |
| 供給予備率    | ▲2.4%    | 2.1%           |

(注1) 供給力対策(公表済み)

- ・長期停止火力の運転再開 : 35万kW
- ・東京電力への融通の停止 : 75万kW

(注2) 東京電力への融通(75万kW)の停止に対しては、東京電力において、60ヘルツ地域全体からの融通の追加や緊急設置電源の新設で対応することとしている。

(参考2) 保守的に評価した場合の中部電力の需給バランス(発電端ベース)

|          | 浜岡全機停止後  | 今夏の供給対策後(7月末) |
|----------|----------|---------------|
| 想定需要(H1) | 2,709万kW | 2,709万kW      |
| 供給力見通し   | 2,615万kW | 2,725万kW      |
| 供給予備率    | ▲3.5%    | 0.6%          |

(注) 想定需要は、昨年並のピークを利用

## (3) 中部電力の今夏の需給対策の基本的考え方

○ 今夏に向け、長期停止火力の活用、火力の定期検査時期の見直し、他の電力会社からの融通、自家用発電設備の活用などにより、更なる供給力の積み増しを目指す。

○ 一方、需要面でも、需給調整契約の活用を図るとともに、経済活動に影響を与えない範囲で一般的な節電を呼びかける。

